



友垣よ

練馬区立石神井西中学校だより
令和七年三月十日 第十一号(第二十三号)
校長 井上 貴 推

無駄こそ大切に！

先週は今年度の「合唱コンクール」を開催いたしました。大変多くの保護者の皆様にも御参加いただき、ありがとうございました。学年・学級を問わず、美しい歌声に惜しみない拍手が送られました。特に3年生は準備期間も短く、精神的にも大変でしたが、歌・伴奏・指揮ともに「さすが！」の一言でした。

さて、結果は各学年金賞クラスが決まりました。3年・C組、2年・F組、1年・E組でした。順位は決まりましたが、どのクラスも精一杯の力を出し切ってくれました。生徒の皆さんに私から大きな拍手を送りたいと思います！

さて、今回の学校だよりは、一年の最後に「言葉に触れる」ことの重要性について書きたいと思います。現代は「効率性」がより求められ、無駄を省こうとしていく感じることがよくあります。それはそれで大切な側面ももちろんありますが、本当に全てがそれで良いのかを考えます。

1 時を経てハッと気付くこと…ありませんか。

文章を読んでいると、いろんな言葉に出会います。そして、そこに出てくる全ての言葉を知っていて読めるか…と言われたら、なかなか難しいものです。私たちは、そういった場合、多くはそのまま読み飛ばしています。ある程度理解できれば、細かいことは気にせず、サラッと飛ばして読んでいくのです。でも、そこで触れた言葉は何となく頭の片隅に残っているものもあります。そうした言葉は、そのときは読み飛ばしても、二度目に出てきたとき、「あれえ…なんか見たことあるな」と思ったり、「ああ。この言葉はそういう意味だったのか」と分かったりするものです。つまり、人間は一度でも触れておけば、二度目以降でしっかり自分のものになることがたくさんあるのです。

2 そこぞこ！ 素読のススメ

素読(そどく)…意味を考えないで、文字だけを声に出して読むこと。そよみ。すよみ。(例)「論語を素読する。」(『大辞林 第四版』三省堂)

明治大学教授の齋藤孝先生は著書の中で、以下のように素読のススメをしていらっしゃいます。…少し前までは学校の授業でも先生の後について素読するというのがありました。今は少なくなりましたが、筆者になりきったつもりで、素読すると、脳裡に残るのです。素読することによって、言葉のアウトプットとインプットを同時に行うことができます。また、名著を素読するとリズム感がとても良いことに気付きます。名著が歴史を超えて残っているのは、そうした理由があるからこそで、そうした作品は、素読すると美しいリズムで読みやすいのです…と。

そうしたときに最初に記した「言葉との出会い」があります。自分の知りたいことや興味のあることだけ書かれた文章ばかり目にしていくと、言葉の広がりや興味のあることだけ書かれた文章ばかり目にしていくと、興味を抱いたり、前のときは知らなかった言葉も今は知っていると感覚を覚えたりすることで、その人の語彙は増えていくのです。どれだけの語彙を知っているか…それこそが生きる力と言えます。

3 「無駄だ」と思えることこそ、語彙発見の源

普段の生活の中で、新しい言葉に出会ったり、聞いたこともない言葉を使われたりすることは、なかなかないものです。特に現代はITの発達で、興味のある情報はすぐに手に入りますが、興味のないものや、まして知らないことに関する情報には触れなくなっているからです。そのような中で、一見無駄なことのように思えても、興味のないことに触れてみる、新しいことにチャレンジしてみるということを意識的に行うと、生きる力として必要な知識を知らないうちに獲得している…ということがあります。

日本語は世界で稀にみるほど、語彙が豊富な言語と言われています。自分の気持ちの確に表したり、その場に合った表現で雰囲気や和ませたりできる最高のツールが用意されているのです。その最大の強みを私たちは使わずに寂れさせようとしているのかもしれない…。

皆さんは「無駄だ」の一言で済ませ、嫌いなことから逃げていたり、興味のないことから目を逸らしたりしていませんか。無駄だと思われることにこそ、本当に必要なものは隠れているのです。言葉を上手に使いこなすことは生きていくうえで最高の能力となります。石西中生にその能力を獲得する近道である「無駄こそ大切に」という言葉を送ります！